

UNHCR難民映画祭  
難民映画祭パートナーズ - 明治学院大学

難民映画祭 | PARTNERS  
REFUGEE FILM FESTIVAL

# マイスモールランド

welatê min ê biçûk



©2022 「マイスモールランド」製作委員会

主催：明治学院大学 / 後援：国連UNHCR協会

日時：2023年12月16日（土）13時から16時  
13時から13時45分：ゲストスピーカー登壇 駒井知会弁護士  
13時45分から16時：映画上映

上映場所：明治学院大学白金キャンパス本館1301教室  
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

参加費：無料（定員100名 申し込み不要。ただし当日定員に達した場合は入場をご遠慮していただくこともあります）

ゲストスピーカープロフィール：駒井知会（こまいちえ）弁護士  
東京大学（学士、修士号取得）  
オックスフォード大学（修士号所得）  
LSE（修士号取得）などで国際難民法・国際人権法を学び、  
難民支援をしたくて弁護士になる  
（東京弁護士会所属、マイルストーン総合法律事務所）



## Story

17歳のクルド人少女サーリヤは、将来小学校の教師になりたいと大学進学を望む埼玉に住む高校生。しかし難民不認定となり、生活が一転します。父は収容され、家族は自由に県を出ることも許されません。同胞と支えながら日本で暮らすクルド人や、家族の輪の尊さを考えさせられる映画です。

注) クルド人は国を持たない最大の民族と呼ばれています。

現状クルド人は、トルコ、イラン、イラク、シリアにまたがり総人口は約3000～4000万人と推定されています。長年の人権侵害や差別、政治的抑圧を受け、世界各国、そして日本にも難民として逃れてきています。

現在、埼玉県にいるクルド人は約2000人います。しかし、日本では、2022年8月初めて裁判で勝訴し1件だけが難民認定されました。



©2022「マイスモールランド」製作委員会

## ～試写した学生の声～

難民問題についてより深く考えさせられると共に、そこに生まれる家族の絆、親が子を想う気持ち、また少し甘酸っぱい高校生活の日常を感じられる、そんな作品です。

私たちと同じ時代に同じ国で暮らしているのに、自由を制限され父と離れることになりながらも強く生きるサーリヤを見て日常とは何か幸せとは何かを考えさせられます。

サーリヤのアイデンティティと日本人から見えている彼女との矛盾に注目してほしい。家族は難民不認定のために隣の県にも自由に行き来できず、就労も許されない。この映画を通して、日本で難民認定を待つ人々の想いと、この現状に関心を持って欲しい。

この映画には日本で生まれ育った者の視点だけでは気づくことのできない事実がある。私たちが生きる社会で難民がどう生きなければならないか、また難民認定の重要性を考えることができるようになった。

国を持たない世界最大のクルド民族で、生まれ育った国からも迫害され、助けを求めてきた日本からも疎外されてしまう。居場所がないことの悲劇がある。私たちは、他人事として難民を見てきたが、この先一生他人事ということは分からない。戦争は突然起き、そこに暮らす人々は突然祖国を追われる。ウクライナ人は難民として他国に逃げたように日本もいつ戦争に巻き込まれるか分からない。もしそうなった時、本当の意味で主人公の大変さに気づけるのかと、本映画を見て考えるきっかけになった。

日本にいる難民の置かれた状況についてリアリティが感じられる映画。アイデンティティの居場所と難民問題に揺れる家族を通して日本の入管制度の残酷さを知ることができる。

この問題は紛れもなく日本で起きている。私達は行方のない人たちを見て見ぬふりをするのか。